

2019 年度全国通訳案内士試験 第1次筆記試験
＜日本歴史＞直前対策セミナー 追加資料
(2019年6月30日)

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

歴史の四大原則と階級的視点

＜日本歴史＞セミナー(2.0)の資料である「歴史とは何か?」「歴史はなぜ変化するのか?」「日本史の時代区分と各文化の特徴」について、多くの受講生が、「目からウロコが落ちた」と感想を述べておられました。「点と点が線につながる」から、「線が移動して面になり、その面が移動して立体になる」、そのような立体的な歴史観を得られるように、ここでは、もう一步踏み込んで、「歴史とは何か?」を考えてみたいと思います。

●歴史の四大原則

(1) 歴史を動かす主人公は、「国民、人民、一般大衆」であって、「歴史上の有名人物」ではない。

織田信長や徳川家康が権力を持ち、歴史を動かすことができたのも、良いか悪いかは別にして、それを支える多くの人民、一般大衆がいたからです。

(2) 経済的土台(下部構造)が社会形態(上部構造)を規定する。

資本主義の現在の日本で、(憲法を改正したとしても)かつての徳川幕府のような政権を打ち立てることはできません。いわんや、奈良時代や平安時代のような天皇による独裁政治も不可能です。

何故か?

資本主義という経済的土台が、奴隷制、あるいは、封建制社会の土台になりえないからです。

(3) 生産力の発展(増大)が、＜生産関係→生産様式＞に変化をもたらし、古い社会形態との矛盾を原動力として、歴史は変化、発展する。

盤石と思われた徳川幕藩体制も元禄時代(「[峠の群像](#)」堺屋太一)を頂点として、[貨幣経済の発展により引き起こされる様々な社会矛盾](#)により、[成長性のない「お米の経済」](#)は、徐々に、しかし、確実に土台から崩壊していきました。

(4) 原始共産制→奴隷制→封建制→資本主義の歴史の流れは「歴史的必然」である。

日本史に現れる歴史上の有名人物(源頼朝、楠木正成、織田信長、徳川家康、西郷隆盛、大久保利通)が、たとえいなくても、歴史は、奴隷制→封建制→資本主義へと必然的に変化した。

●支配者と被支配者の両方の立場からの視点、さらには、両者の対立(闘争)という視点が重要である。

前回は、主に支配者の視点から歴史を見てみましたが、本当は、被支配者の視点も同様に大切であって、より正確に言えば、あらゆる歴史的事象(事件)は、支配者と被支配者との階級間の対立(闘争)として見なければ、その本質を理解することはできません。

例(その1)

[天智天皇](#)9年(670)庚午(かのえうま)の年に日本最古の全国的規模の戸籍である「[庚午年籍](#)」が作成されることになりました。戸籍は、支配者が人民を支配するための基本台帳ですが、[その主な目的は、徴兵と徴税でした。](#)

646年の[改新の詔](#)によって、制度上は、人民は、「[公地公民](#)」という美名のもとで、[ヤマト王権](#)の直接奴隷となったわけですが、実際は各地方の豪族たちが自分の領地の人民を支配している構図に変わりはなく、[天智天皇](#)は、全国規模での奴隷名簿の作成に乗り出したというわけです。

ここには、[奴隷名簿を作成するヤマト王権と奴隷名簿に登録されて兵役に取られたり、しっかり税を取られる人民との対立構造](#)があります。

ちなみに、現在、世界で、戸籍制度がある国は、日本、韓国、台湾の三カ国のみで、韓国と台湾は、第二次世界大戦中の日本統治下における戸籍制度を戦後もそのまま使っているということで、戸籍制度は、人民支配の道具として非常に優れているということです。

日本政府は、戸籍制度に加えて、2015年10月から「[マイナンバー制度](#)」の運用を開始して国民に対する視点を強めようとしています。くわばら、くわばら。

例(その2)

政府与党は、なぜ、専業主婦の経済的自立を妨害するために、年収103万、106万、130万、150万円の壁を作るのでしょうか。経済的自立を果たせない主婦は、夫への経済的依存度を高めざるをえません。

一方、夫は、企業戦士として75歳まで企業の奴隷として搾取されようとする現実があります。

大企業(大資本)の「政治請負い集団」である政府与党は、大企業(大資本)が、「直接奴隷である夫」と「間接奴隷である妻」をとことん搾取できるような体制作りを熱心に行い、結果、大企業(大資本)が、500兆円を超える内部留保を抱えて笑いが止まらない状態を現出させました。

つまり、これは、**支配者である大企業(大資本)とその被支配者である大多数の賃金労働者との対立構図**と見ることによって、初めて、その本質が見えるということです。

2019年度の注目→<原始・古代>

百舌鳥・古市古墳群(もず・ふるいちこふんぐん)が、2019年に世界遺産に登録されることになり、原始・古代が注目され、古墳時代を中心に出题される可能性が高いので、この時代の重要項目をまとめました。

●「漢書」地理志(かんじょちりし)

- ・「漢書」は中国の前漢の歴史を記した歴史書で、「地理志」の部分に当時の日本についての記述がある。
- ・日本について「**紀元前1世紀ごろ**、倭人(わじん)(日本人のこと)が100余りの小国をつくり、一部の国が朝鮮半島の楽浪(らくろう)郡に使いを送っていた」と書かれている。
- ・原文:楽浪海中に倭人あり、分ちて百余国と為し、歳時をもつて来たりて献見すと云ふ。

●「後漢書」東夷伝(ごかんじょとういでん)

- ・「後漢書」は中国の後漢の歴史を記した歴史書で「東夷伝」の部分に当時の日本についての記述がある。
- ・「**1世紀のなかば**、倭の奴国(なこく、なのくに)の王が漢(後漢)に使いを送り、皇帝から金印を授けられた」と書かれている。
- ・原文:建武中元二年(57年)、倭奴国、貢を奉じて朝賀す。使人自ら大夫と称す。倭国の極南界なり。光武賜うに印綬を以てす。

●「魏志」倭人伝(ぎしわじんでん)

- ・中国の三国時代のことを書いた「三国志」のうち「魏」(ぎ)の歴史を書いたものが「魏志」で、「倭人伝」の部分に当時の日本についての記述がある。
- ・**卑弥呼**や**邪馬台国**について書かれている。
- ・「**239年**から卑弥呼がたびたび魏に使いを送り、魏の皇帝から親魏倭王の称号と、銅鏡100枚などを授けられた」と書かれている。
- ・元々は男子を王として70~80年を経たが、倭国全体で長期間にわたる騒乱が起こった(いわゆる「**倭国大乱**」と考えられている)。そこで、卑弥呼と言う一人の女子を王に共立することによってようやく混乱を鎮めた。
- ・卑弥呼は、**鬼道**に事え衆を惑わした。年長で夫はいなかった。弟が国政を補佐した。王となって以来人と会うことは少なかった。1000人の従者が仕えていたが、居所である宮室には、ただ一人の男子が入って、飲食の給仕や伝言の取次ぎをした。樓観や城柵が厳めしく設けられ、常に兵士が守衛していた。卑弥呼は景初2年(238年)以降、帯方郡を通じて魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」に任じられた。正始8年(247年)には、**狗奴国**(くぬこく、くなく)との紛争に際し、帯方郡から塞曹掾史張政が派遣されている。「魏志倭人伝」の記述によれば朝鮮半島の国々とも使者を交換していた。正始8年(247年)頃に卑弥呼が死去すると塚がつくられ、100人が殉葬された。その後男王を立てるが国中が服さず更に殺し合い1000余人が死んだ。再び卑弥呼の宗女(一族 or 宗派の女性)である13歳の**壹與**(いよ、または、とよ)を王に立て国は治まった。先に倭国に派遣された張政は檄文をもって壹與を諭しており、壹與もまた魏に使者を送っている。

●古墳時代

古墳時代(こふんじだい)は、日本の歴史の時代区分の一つである。古墳、特に**前方後円墳**が盛んに造られた時代を意味する。縄文時代、弥生時代に次ぐ考古学上の時期区分である。ほぼ同時代を表している「大和時代」は**日本書紀**や**古事記**による文献上の時代区分である。現在は研究が進んだこともあって、この時代の呼び方は「古墳時代」がより一般的となっている。

古墳時代の時期区分は、古墳の成り立ちとその衰滅をいかに捉えるかによって、僅かな差異が生じる。例えば、**前方後円墳**が造営され始めた年代に関しても、議論が大きく揺れ動いてきた。現在のところ一般的に、古墳時代は**3世紀半ば過ぎから7世紀末頃までの約400年間を指すことが多い**。中でも3世紀半ば過ぎから6世紀末までは、**前方後円墳**が北は東北地方南部から南は九州地方の南部まで造り続けられた時代であり、**前方後円墳**の時代と呼ばれることもある。

前方後円墳が造られなくなった7世紀に入っても、方墳・円墳、八角墳などが造り続けられるが、この時期を古墳時代終末期と呼ぶこともある。

●「空白の4世紀」

西暦266年から413年にかけて中国の歴史文献における倭国の記述がなく詳細を把握できないため、この間は「空白の4世紀」とも呼ばれている。日本国家の成立を考察すれば、倭国のヤマト王権が拡大し、王権が強化統一されていった時代と考えられる。古墳時代終末期に倭国から日本国へ国名を変更した。

●好太王碑の碑文

そもそも**新羅**・**百残**は(**高句麗**)の属民であり、朝貢していた。しかし、倭が辛卯年(391年)に海を渡り**百残**・**加羅**・**新羅**を破り、臣民となしてしまった。

●倭の五王

倭の五王(わのごおう)とは、古代中国の歴史書に登場する倭国の五人の王、**讚**・**珍**・**済**・**興**・**武**をいう。5世紀初頭から末葉まで、およそ1世紀近くに渡って主に南朝の宋(420年-479年)に朝貢した。倭の五王が記紀(古事記と日本書紀)における天皇の誰に該当するかについては諸説ある。

●天皇と倭の五王

最も蓋然性が高いのが**雄略天皇**を「武」とする説である。記紀の記述の内容が5世紀末の朝鮮の史料とよく符合し、実名である「**ワカタケル**」と思しき名が刻まれた鉄剣がやはり5世紀末頃の遺跡で見つかっていることから同時代に在位していた大王である可能性が高く、「武」という名も実名の「**タケル**」を漢訳したものと考えられる。先代の**安康天皇**は雄略の兄であり、先々代の**允恭天皇**は安康・雄略の父であることから、済の子が興でありその弟が武であると記す『宋書』の系譜とも一致する。また、478年に武が奉った上表文では「にわかにかに父兄を喪い」(奄喪父兄)と述べられており、允恭の死後に跡を継いだ安康がわずか3年で暗殺されたという『記紀』の記述とも整合性がある。以上のように「済」・「興」・「武」については研究者の間でおおむね一致を見ているが、「讚」と「珍」については「宋書」と「記紀」の伝承に食い違いがあるため、様々な説がある。

●日本経済新聞朝刊では、2018年9月より、池澤夏樹氏の「ワカタケル」を掲載している。

<作者の言葉>

数年前に『古事記』の現代語訳をして、神話めいた上巻より人間くさい中下巻の方がおもしろいと知った。天皇たちの武勇伝は少なく、争いと色ごとが多い。その中で『日本書紀』に「大悪天皇」と記された二十一代雄略天皇を主人公にして小説を書くこと決めた。

和名をワカタケルというこの人物は、中国の史書や古墳の遺物などで、実在したことがわかっている。暴君であると同時に偉大な国家建設者であった。

以上

全国通訳案内士試験 第1次筆記試験<日本歴史>解答例

西暦	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
平成	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1	29-8	33-1	5	41-5	2	4	5	1	2	3	2	4	4	3	1
2	30-9	34-4	5	42-2	10	18	10	12	10	7	17	1	4	2	3
3	31-2	35-2	1	43-1	3	5	4	3	5	4	4	1	2	2	4
4	32-5	36-4	3	44-10	4	8	12	15	1	5	20	3	1	1	2
5	33-10	37-2	2	45-2	1	3	5	2	5	3	4	4	1	2	3
6	34-1	38-2	7	46-7	7	7	16	18	9	19	11	1	1	3	4
7	36-7	39-4	2	47-3	4	1	5	1	3	1	3	3	3	1	2
8	36-8	40-4	2	48-6	6	12	18	1	7	2	16	3	2	3	2
9	37-9	41-1	3	49-2	5	2	4	3	2	5	2	4	2	1	4
10	38-4	42-5	10	50-4	2	11	8	17	6	16	13	2	1	2	3
11	39-4	43-3	3	51-1	5	2	5	2	3	5	1	4	4	3	4
12	40-3	44-3	4	52-4	1	5	2	5	1	3	3	2	3	1	1
13	41-1	45-2	5	53-1	3	4	4	3	5	1	5	4	1	4	1
14	42-2	46-5	5	54-2	2	4	2	3	4	4	1	4	3	4	4
15	43-3	47-4	1	55-3	4	3	5	1	5	1	4	1	1	4	3
16	44-4	48-3	1	56-3	4	5	3	1	2	1	2	3	2	1	2
17	45-2	49-2	2	57-4	5	3	4	1	2	4	4	1	2	3	2
18	46-1	50-5	4	58-5	2	5	2	4	3	2	5	4	4	4	1
19	47-3	51-1	2	59-2	1	2	4	3	1	5	3	2	4	1	3
20	48-7	52-3	5	60-5	3	3	5	5	2	1	5	4	2	3	4
21	49-1	53-2	5	61-2	4	4	1	1	2	5	3	1	3	3	2
22	50-3	54-10	3	62-1	2	2	3	5	4	4	1	1	2	4	4
23	51-4	55-5	3	63-3	1	5	5	2	3	3	5	1	3	2	2
24	52-5	56-3	4	64-2	3	5	3	1	1	3	5	1	6	3	3
25	53-5	57-7	2	65-4	5	3	5	4	4	4	2	3	ア	2	2
26	54-1	58-3	3	66-5	1	3	1	3	2	5	2	3	オ	2	1
27	55-5	59-2	5	67-3	3	5	2	5	1	1	4	2	カ	2	1
28	56-2	60-5	2	68-2	5	5	3	5	4	2	1	1	2	1	4
29	57-4	61-4	2	69-4	4	1	2	3	5	3	3	1	3	2	4
30	58-3	62-2	3	70-5	2	5	1	5	2	1	2	4	2	2	3
31		63-2	2	71-1	3	4	1	1	3	5	3	2	4	2	3
32		64-5	4	72-10	10	6	1	3	1	1	1	4	2	1	2
33		65-2	1	73-3	1	4	4	1	5	3	3	1,2,4,5	4	3	4
34		66-1	4	74-9	7	8	2	4	4	3	2	3	4	ウ	3
35		67-1	1	75-4	5	5	3	2	2	2	3	3	1	2	3
36		68-1	6	76-8	9	7	3	5	5	4	5		4	い	2
37		69-4	10	77-2	4	5	1	2	1	3	4		1	4	2
38		70-5	1	78-6	6	6	1	5	4	4	2		3	1	4
39		71-3	4	79-5	2	4	4	5	3	5	4		3		1
40		72-4	3	80-7	8	6	5	3	2	2	5		1		2
41		73-3											2		
42		74-6													
43		75-1													
44		76-5													
45		77-7													